



まなびかんニュース パソコン道場

# まなパソコン道場

第18回

紙面記載の画面は  
Windows7+Office2013  
操作環境によっては表示  
が異なる場合があります

白帯級

初級レベル

茶帯級

中級レベル

黒帯級

上級レベル

## 黒帯級

### 月末で止まるカレンダー Excel (DATE関数・MONTH関数)

	A	B	C	D
1	2015	年	2	月
2				
3		日付		曜日
4	1			日
5	2			月
6	3			火
7	4			水
8	5			木
30	27			金
31	28			土
32				
33				
34				

年(A1)・月(C1)に連動して、ちゃんと月末で止まる！

1 A1=年、C1=月を入力。セルA4:A34を選択して右クリック→「セルの書式設定」で「表示形式」タブ→分類「ユーザー定義」→「種類」枠の中に、半角英数で d と入力→OKで閉じて、日付だけ(1~31)を表示させるための設定をする(右図)

2 次にセルA4のみ選択して =DATE(\$A\$1,\$C\$1,1)と入力。  
①で日だけ表示する設定をしてあるのでその月の初日=「1」が表示される。1日は2日目以降の計算のため固定化(\$A\$1の\$マークは行・列を固定するための記号で、絶対参照という)



3 セルA5 (つまり2日目のところ)には、以下を入力。  
=IF(A4="", "", IF(MONTH(A4+1)=MONTH(\$A\$4), A4+1, ""))

セルA5のオートフィルでセルA34までこの書式をドラッグしよう。セルA4(1日のところ)は1としか表示されていないが、値としては2015/2(12)/1の「日の値」である「1」を表示させているだけで、実は「年や月」の値も持っている。つまりこの式は、「A4に1日足しても\$A\$4と同じ月なら順次1日を追加し、もし月の値が違ったら(=翌月になったら)何も表示しない」という意味になる。

\* 式の中の""は「ダブルクォート 2つ」を続けて入力。

4 セルB4 には2013年11月号(第5回)で掲載したTEXT関数を使って、=IF(A4="", "", TEXT(A4, "aaa")) と入力。その月の1日の曜日が表示される。曜日表示の最後はセルB34なので、B4のオートフィルをB34までドラッグし最大31日目まで曜日を表示できるようにする。(完了!!)

## 黒帯・免許皆伝！指数☆☆☆

上の図が完成形。表示したい日付は最大31日分なので、セルA4:A34までを使う。ついでにB4:B34には曜日を自動で表示させる。しかも、年(A1)・月(C1)を変更すれば月末を自動認識して、月末以降は日も曜日も表示されない。2月なら28日までとか(閏年も対応!)、キッチリ対応して止まるんじゃ! 複雑そうだが、実は基本的な関数を組み合わせで実現できる。黒帯級ではこういったアイデアが重要じゃ。ちなみに、Office2013以前のExcelでも機能するぞ!!